

相馬農業高等学校飯館校 74年間の歩み

歴史の散歩道

福島県立相馬農業高等学校飯館校は、令和5年9月15日に本校に統合され、74年にわたる歴史に幕を下ろしました。

同校は、昭和24年に「大館分校」として、村と村民が寄贈した草野地区の木造校舎で開校。飯館村が誕生した昭和31年に「飯館分校」、平成20年に「飯館校」と改称しました。平成23年には震災と原発事故による避難で福島市に移転。同24年からは同市内の仮設校舎で、飯館校サテライト校として足跡を刻みました。

同校の卒業生は、累計で約3400人を数えます。村内唯一の高等学校として優れた人材を輩出し、また、村内でのボランティア活動、農業文化祭の開催など、生徒のさまざまな活動が村に活力を与えてきました。平

成30年度の募集停止にあたり村立高校としての存続も検討されましたが、令和2年度からの休校期間を経て、令和5年に本校に統合されました。

同校の敷地を含むエリアが深谷産業団地として開発されることが決定したことを受けて、令和6年春、同窓会の有志が感謝祭を企画。桜が舞い散る校舎の前で神事を行い、関係者が想いを語り合いました。

村唯一の高等学校として村民に愛され、村と共に歩んだ74年間でした。

この6月中旬から校舎の解体が始まります。工事開始前にゆかりの皆さんに校舎を見ていただけるよう見学日が設けられました。6月14日・15日の午前10時から午後4時までです。懐かしい校舎をぜひ訪れてみてください。



令和6年春、解体が決まった校舎の前で同窓会有志が感謝祭を挙げる。母校への想いを語り合いました。



平成21年の創立60周年記念紅葉祭(文化祭)。左上は「質実剛健」「勤勉・勤労」の精神を象徴する校章。



交流センター「ふれ愛館」の玄関に、松原光年さん(小宮)のお花の写真が飾られています。また、交流センターの正面通路のお花は、「飯館くらしの会」の皆さんが定期的に手入れをしてくれています。交流センターにお越しの際は、季節のお花をぜひ楽しんでください。

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

交流センターからのお知らせ

令和6年度の交流センター図書貸出冊数は、のべ1593冊でした。たくさんの方に本を読んでもいただき、ありがとうございます。これからも読書を通じて心を豊かにしていきます。

いいたて
なりわい
REPORT
vol.11

お客様の想いに寄り添う“まていな村のまていな工務店”
株式会社 英工務店



「株式会社英工務店」は、まていな村のまていな工務店を掲げる総合建築業の会社です。

創業者で代表取締役の高橋英明さん(上飯樋)が個人で会社を立ち上げたのは昭和45年のことです。高橋さんはその後建築、土木、施工管理などの資格を多数取得し、業務を充実させてきました。現在では、事務員を含め15人が勤務。木造から鉄骨造、鉄筋コンクリート造までさまざまな建物の設計・施工を行い、道路舗装や橋梁などの土木工事にも携わっています。建築物では、一般の住宅はもとより、企業の建物、



上) 江戸期の住宅を解体した村民から譲り受けた柱や梁で再建した建物。(令和4年) 下) 全村避難の期間に手がけた復興公営住宅飯野町団地。(平成26年)



村営住宅、公民館など、民間工事にも公共工事にも数多く携わり、それらの建物が村の景色にしっかりと馴染んでいます。

ベテランの職人さんも、若手の事務員さんも、「雰囲気や穏やかで働きやすい」と言います。「新入社員も募集していますが、資格はなくても大丈夫」と高橋さん。「働きながら仕事を覚えて、資格も取れますから」。

震災後は、復旧・復興関連の仕事が続きました。全村避難中の平成25年に焼失

した山津見神社の再建にあたっては、「宮司さんから頼まれ、覚悟を決め、勉強しながら取り組みました」と振り返ります。

高橋さんは、「建築はお客様の大切なものをつくらせてもらう仕事」と言います。「だからこそお客様の気持ちに応えたい。正直に生懸命、仕事をしています。喜んでもらえるよう、どんなに忙しくてもまていな仕事をする。その基本的な考え方は、社員にも伝わっていて、皆に一生懸命やっています」。

株式会社 英工務店
飯館村白石字町70
☎0244-42-0161



一人ひとりが自分の仕事にまていに取り組んでいます。